**おおさかＱネット「動物愛護管理」に関するアンケート**

**分析結果概要**

■実施期間　平成29年11月17日（金）～11月21日（火）

■サンプル数　現在、犬又は猫を飼っている府民男女各200人、過去に、犬又は猫を飼っていた

府民男女各100人、犬又は猫を飼っていない府民男女各200人の計1,000人



■　調査概要

**1.調査目的**

大阪府では、「人と動物とが共生できる社会の実現」をめざして、「大阪府動物愛護管理推進計画」を策定（平成26年4月改定）し、犬・猫の引取り数の削減や返還譲渡率の向上等に取り組んできたが、一定の成果は出ているものの、まだ十分とは言えない状況にある。

今後、返還譲渡率の向上等の取組みを促進するため、新たな財源の確保策として、一般府民や企業からの寄付を基にした基金創設を検討していくにあたり、動物愛護管理に対する寄付の意向や関心等を明らかにする。

また、人と動物とのよい関係づくりを進め社会全体で殺処分がなくなることをめざして平成29年8月に開所した「大阪府動物愛護管理センター＜愛称　アニマル ハーモニー大阪＞」について、当センターが子どもから大人まで幅広い世代の利用を促進するために必要な府民ニーズ等を明らかにする。

**2.主な調査（検証）項目**

　①　動物愛護管理に関する寄付に“関心”がある人は、犬・猫の飼養経験者と未経験者に差がある。また、犬猫の飼養未経験者であっても、犬・猫が好きな人は、寄付への関心の割合が高い。加えて、社会的課題に対する自治体等への寄付経験者は、動物愛護管理に関する寄付への関心の割合が高い。

　②　使途が「所有者のいない猫（いわゆる野良猫）の対策」であれば（最も）寄付をしたいと考える人は、他の使途に対し寄付をしたいと考える人に比べて、野良猫による被害を受けた経験のある人が多い。

　③　「アニマルハーモニー大阪」及び「犬・猫の譲受け」に“関心”がある人は、犬・猫飼養経験者と未経験者に差がある。また、性別や年代別、居住地、子ども（中学生以下)の有無で差がある。

**3.主な調査（検証）結果**

　①　犬又は猫の飼養経験がある人の方が、ない人に比べて、動物愛護管理の取組みに対する寄付に関心がある人の割合が高く、飼養経験がない場合でも犬又は猫が好きな人の方が高いことがわかった。また、動物愛護管理に限らず過去に自治体やNPO法人等に寄付したことがある人の方が、動物愛護管理の取組みに対する関心も高いことがわかった。

　②　これまでに野良猫の被害にあったことがある人とない人で、動物愛護管理に対する寄付の取組み項目で「所有者のいない猫（いわゆる野良猫）対策にかかる活動」とそれ以外の取組みに対して比較検証したが、野良猫の被害経験の有無による統計上の有意差は見られなかった。

　③　犬又は猫の飼養経験がある人は、ない人に比べ「アニマルハーモニー大阪」に関心のある割合が高く、性別では女性が、年齢では若年層がいずれも高くなった。居住地

　　では、東部大阪地域の割合が、また、子どもの有無では、就学前の子どもがいる人割合が、それぞれ他に比べて高かったが、統計上の有意差はほとんど見られなかった。また、「アニマルハーモニー大阪」の主な取組みである犬又は猫の譲受けについては、上述の「アニマルハーモニー大阪」への関心と同様に、飼養経験がある人、女性、若年層がともに、譲受けに関心のある割合が高かった。居住地と子どもの有無では、統計上の有意差は見られなかった。

（注）

1.　「おおさかＱネット」の回答者は、民間調査会社に登録されたインターネットモニターであり、回答者の構成は無作為抽出サンプルのように「府民全体の縮図」ではない。そのため、アンケート調査の「単純集計（参考）」は、無作為抽出による世論調査のように「調査時点での府民全体の状況」を示すものではなく、あくまで本アンケートの回答者の回答状況にとどまる。

2.　割合を百分率で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。

3.　図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。

4.　図表中の上段の数値は人数（n）、下段の数値は割合（％）を示す。

5.　図表下にカイ2乗検定の値（p値）を記載しているものは、信頼度5％水準で統計上の有意差がみられたもの。原則は自由度1での検定となるが、自由度2以上でも有意差の見られたものについては、ｐ値と合わせて自由度を記載している。

6.　複数回答のクロス集計については、カイ2乗検定を行っていない。

**1.動物愛護管理に関する寄付への関心と犬・猫の飼養経験等との関係性**

　動物愛護管理の取組みに対する寄付への関心と、犬・猫の飼養経験の有無、飼養経験がない場合でも犬・猫の好き嫌い、また、社会的課題に対する自治体等への寄付経験の有無との関係性について調査を行った。

調査にあたって、動物愛護管理の取組みに関する寄付について関心があるか、との質問に対して、「関心がある」、「少し関心がある」と回答した人を【関心あり】とし、「あまり関心がない」、「関心がない」と回答した人を【関心なし】とする。なお、「わからない」と回答した人は除いた。

また、犬又は猫の飼養についての質問に対して、「現在、犬又は猫を飼っている」、「現在は飼っていないが、過去に、犬又は猫を飼っていた」と回答した人を【飼養経験あり】とし、「犬又は猫を飼ったことがない」と回答した人を【飼養経験なし】とする。

**1-1 犬・猫の飼養経験等との関係性**

動物愛護管理の取組みに対する寄付への関心と、犬・猫の飼養経験の有無、飼養経験がない場合でも犬・猫の好き嫌いによる関係性について調査を行った。

◆動物愛護管理の取組みに対する寄付について【関心あり】と回答した人の割合は、【飼養経験あり】の方が、【飼養経験なし】に比べ高かった。（図表 1-1-1）

◆また、飼養経験がない人であっても、「犬又は猫が好き」と回答した人は、「嫌い」「どちらでもない」と回答した人に比べ、寄付への【関心あり】の割合が高かった。なお、今回の調査では、「飼養経験がなく、犬又は猫が嫌い」と回答した人で動物愛護管理の取組みに対する寄付に関心のある人はいなかった。（図表 1-1-2）

　調査の結果から、動物愛護管理の取組みに対する寄付については、犬又は猫を現在又は過去に飼養した経験のある人がまず寄付のターゲットとしての可能性が高く、加えて、これまで飼養した経験がない場合でも、犬又は猫が好きという人は可能性があることがわかった。

【図表1-1-1】





【図表1-1-2】





**1-2 自治体やNPO法人等への寄付経験との関係性**

動物愛護管理の取組みに対する寄付への関心と、動物愛護管理に限らず過去１０年程度の間で、自治体やNPO法人などに寄付した経験との関係性について調査を行った。

◆まず、動物愛護管理に関わらず過去１０年程度の間で、自治体やNPO法人などに寄付したことがあると回答した人は26.3%で、寄付した内容（分野）については、最も多かったのが「災害支援（63.1%）」、次いで「動物愛護管理（33.1%）」、「子ども・青少年育成（22.1%）」、「国際協力・交流（20.9%）」であった。（複数回答）(図表 1-2-1）(図表 1-2-2）

【図表1-2-1】過去に自治体やNPOへの寄付





【図表1-2-2】過去に寄付した内容（分野）





◆次に、動物愛護管理の取組みに対する寄付について、「（動物愛護管理に限らず）過去に自治体等に寄付したことがある」と回答した人の方が、「過去に自治体等に寄付したことがない」と回答した人に比べ、【関心あり】と回答した人の割合が高いことがわかった。(図表 1-2-3）

【図表1-2-3】





**2. 動物愛護管理に関する寄付の内容と、野良猫被害の経験との関係性**

　これまで野良猫の被害にあったことのある人とない人について、動物愛護管理の取組みで寄付をしたいと思う項目（野良猫対策とその他の取組み）との関係性について調査を行った。

◆まず、動物愛護管理の取組みに対する寄付に関心がある人（【関心あり】n=389）に対して、寄付にかかる取組み６項目を示し、最も寄付をしたいと思う項目を質問した結果、最も多かったのは「飼い主のいない動物に新しい飼い主を見つける活動（47.3%）」、次いで「災害時に動物を保護・救助する活動（19.5%）」で、３番目が「所有者のいない猫（いわゆる野良猫）対策にかかる活動（14.1%）」であった。(図表 2-1）

【図表2-1】



◆動物愛護管理に対する寄付の取組み項目のうち「所有者のいない猫（いわゆる野良猫）対策にかかる活動」とそれ以外の取組みに対して、これまでに野良猫の被害にあったことがある人とない人で比較検証したところ、野良猫の被害経験の有無による統計上の有意差は見られず、本調査では関係性は確認できなかった。(図表 2-2）

【図表2-2】





**3. 動物愛護管理施設や動物の譲受けへ関心と飼養経験や性・年齢等との関係性**

「大阪府動物愛護管理センター（愛称：アニマルハーモニー大阪）」や、「アニマルハーモニー大阪」の主な取組みの1つである犬又は猫の譲受けに対する関心と、犬・猫の飼養経験の有無、性・年齢層別、居住地、子どもの有無との関係性について調査を行った。

「アニマルハーモニー大阪」について関心があるか、との質問に対して、「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」と回答した人を【施設関心あり】とし、「あまり関心がない」、「関心がない」と回答した人を【施設関心なし】とする。なお、「わからない」と回答した人は除いた。

また、犬又は猫の譲受けについて関心があるか、との質問に対して、「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」と回答した人を【譲受け関心あり】とし、「あまり関心がない」、「関心がない」と回答した人を【譲受け関心なし】とする。なお、「わからない」と回答した人は除いた。

年齢層については、18歳以上39歳以下を【若年層】、40歳以上59歳以下を【中間層】、60歳以上を【高齢層】とする。

　居住地については、以下のとおり府内を【大阪市域】、【北部大阪地域】、【東部大阪地域】、【南部大阪地域】の４地域とする。

※居住地（4地域）

大阪市域　　：大阪市

北部大阪地域：豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、島本町、豊能町、能勢町

東部大阪地域：守口市、枚方市、八尾市、寝屋川市、大東市、柏原市、門真市、東大阪市、四條畷市、交野市

南部大阪地域：堺市、岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、富田林市、河内長野市、松原市、和泉市、羽曳野市、高石市、藤井寺市、泉南市、大阪狭山市、阪南市、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町、太子町、河南町、千早赤阪村

**3-1. 「アニマルハーモニー大阪」の関心と飼養経験、性・年齢層等との関係性**

平成29年8月1日に羽曳野市にオープンした「大阪府動物愛護管理センター（愛称：アニマルハーモニー大阪）」について、「動物愛護の普及啓発や動物の収容、引き取り、返還及び譲渡など」を行う施設であることを示した上で、同施設への関心の有無を質問し、飼養経験や性・年齢層別、居住地、子どもの有無との関係性について調査を行った。

**(1) 飼養経験の有無**

◆犬又は猫の【飼養経験あり】と答えた人の方が、【飼養経験なし】と答えた人に比べ、「アニマルハーモニー大阪」について【施設関心あり】と答えた人の割合が高かった。（図表3-1-1）

【図表3-1-1】





**(2) 性別**

◆女性の方が、男性に比べ、「アニマルハーモニー大阪」について【施設関心あり】と答えた人の割合は高かった。（図表3-1-2）

【図表3-1-2】





**(3) 年齢層別**

◆年齢層別では、「アニマルハーモニー大阪」について【施設関心あり】と答えた人の割合は、年齢層が【高齢層】【中間層】【若年層】と若くなるにつれて高いことがわかった。（図表3-1-3）

【図表3-1-3】





**(4) 居住地別**

◆居住地別では、「アニマルハーモニー大阪」について【施設関心あり】と答えた人の割合は、【東部大阪地域】(51.0%)が最も高く、最も低かった【北部大阪地区】(36.6%)との間で差が見られた。その他の地域の間では、統計上の有意差は見られなかった。（図表3-2-4）

【図表3-1-4】





**(5) 子どもの有無**

子どもの有無について、「就学前」「小学生」「中学生」の子どもがいるか（MA）を質問し、その集計結果について複数の子どもがいる場合は、最も若い子どもをもって再集計(SA)し、「アニマルハーモニー大阪」についての関心との関係性を調査した。

◆「就学前の子どもがいる」と答えた人と「中学生（のみ）の子どもがいる」と答えた人との間では、「アニマルハーモニー大阪」に対する関心に統計上の差があったが、その他の項目との間には差は見られなかった。（図表3-1-5）

◆参考に「就学前の子どもがいる」と「それ以外」、また、「中学生以下の子どもがいる」と「それ以外」で比較したが、同様に統計的な差は見られなかった。（図表3-1-6,7）

　この結果から、就学前の子どものいる人は、中学生のみの子どもがいる人よりも関心がある割合は高かったが、その他中学生以下の子どもがいない人も含め、子どもの有無では明確な違いは見られなかった。

【図表3-1-5】





【図表3-1-6】（参考）子ども（就学前）の有無





【図表3-1-7】（参考）子ども（中学生以下）の有無





**（参考）**

「アニマルハーモニー大阪」について【施設関心あり】と答えた人(n=376)に対して、関心のある取組み内容や行ってみたいイベントを質問した結果について、参考に記載する。

関心のある取組み内容については、最も多かったのは「3飼い主のいない動物に新しい飼い主を見つける活動(75.8%)」、次いで「4災害時に動物を保護・救助する活動(50.0%)」、「1動物愛護の大切さの普及啓発(43.6%)」、「2動物とのふれあいの場の設置(42.8%)」という結果であった。（図表3-1-8）

　また、どのようなイベントがあれば行ってみたいかについては、「1動物とふれあえるイベント(58.5%)」が最も多く、次いで「3譲渡のためのお見合いなどのイベント(51.3%)」、「2しつけ・マナー教室など動物を飼う上で必要な講座や相談会(50.0%)」という結果であった。(図表3-1-9)

【図表3-1-8】





【図表3-1-9】





**3-2. 動物の譲受けの関心と飼養経験、性・年齢層等との関係性**

「アニマルハーモニー大阪」の主の取組みの1つである犬又は猫の譲受け（飼い主のいない動物を新しい飼い主として譲り受けること）についての関心の有無を質問し、飼養経験や性・年齢層別、居住地、子どもの有無との関係性について調査を行った。

**(1) 飼養経験の有無**

◆犬又は猫の【飼養経験あり】と答えた人の方が、【飼養経験なし】と答えた人に比べ、犬又は猫の譲受けについて【譲受け関心あり】と答えた人の割合は高かった。（図表3-2-1）

【図表3-2-1】





**(2) 性別**

◆女性の方が、男性に比べ、犬又は猫の譲受けについて【譲受け関心あり】と答えた人の割合は高かった。（図表3-2-2）

【図表3-2-2】





**(3) 年齢層別**

◆年齢層別では、犬又は猫の譲受けについて【譲受け関心あり】と答えた人の割合は、年齢層が【高齢層】【中間層】【若年層】と若くなるにつれて高いことがわかった。（図表3-2-3）

【図表3-2-3】





**(4) 居住地別**

◆居住地別では、犬又は猫の譲受けについて【譲受け関心あり】と答えた人の割合は、【東部大阪地域】(45.2%)が最も高く、【北部大阪地区】(36.0%)が最も低かったが、４地域の間で統計上の有意差は見られなかった。（図表3-2-4）

【図表3-2-4】





**(5) 子どもの有無**

子どもの有無について、3-1(5)と同様に再集計し、犬又は猫の譲受けについての関心との関係性を調査した。

◆「就学前の子どもがいる」と答えた人と「中学生（のみ）の子どもがいる」と答えた人との間では、犬又は猫の譲受けに対する関心に差はあったが、その他の項目の間には統計的な差は見られなかった。（図表3-2-5）

◆参考に、「就学前の子どもがいる」と「それ以外」、また、「中学生以下の子どもがいる」と「それ以外」で比べたか、同様に統計的な差は見られなかった。（図表3-2-6）（図表3-2-7）

　この結果から、就学前の子どものいる人は、中学生のみの子どもがいる人よりも関心がある割合は高かったが、その他中学生以下の子どもがいない人も含め、子どもの有無では明確な違いは見られなかった。

【図表3-2-5】





【図表3-2-6】（参考）子ども（就学前）の有無





【図表3-2-7】（参考）子ども（中学生以下）の有無





**（参考）**

　犬又は猫の譲受けについて【譲受け関心あり】と答えた人(n=379)に対して、示した6項目に対して、それぞれどの程度重視するかを質問した結果について、参考に記載する。

質問に対し「重視する」、「どちらかといえば重視する」と答えた割合が最も高かった項目は、「1事前にふれあえること(94.4%)」、次いで「譲受け後、相談などができること(82.0%)」、「事前に一定のしつけができていること(80.7%)」という結果であった。（図表3-2-8）

※( )内の割合は、「重視する」と「どちらかといえば重視する」の割合の和。

【図表3-2-8】



